

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>ホーム理念である「笑顔、優しさ、思いやり」が、自然体で出来るように、利用者、管理者、職員共に高めている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>玄関に、理念を掲げて、管理者、職員が理念を理解し、実践に日々取り組んでいる。</p>	○	今後も、理念である「笑顔、優しさ、おもいやり」を日々の介護の基本として、常に職員が意識をしながら実践に取り組んで行きたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>家族の方や、ホームを訪問して下さった方にもわかり易いように、玄関に理念を掲げている。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>山の斜面に建っており、近所の人との付き合いは難しいが、散歩に出かけるときには、声をかけたり、挨拶をしたりしている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>地理的に、利用者の方が頻繁に地域に出かけて行くことは難しいが、地域のボランティアの方が積極的に来てくれ、交流を深めている。</p>	○	地域の一員として、地域活動などに参加し、地元の人と交流が出来るようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に呼びかけてはいるが実現できていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、それぞれの評価の意義を理解して、評価を活かして改善に取り組んでいる。	○	今後も、外部評価の評価を活かして、ホームがよりよくなるよう改善に努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進協議会での報告や、話し相手の意見をサービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム計画作成担当者連絡会で丸亀市の職員、丸亀市のグループホームの職員と2カ月に1回、研修等を行い、グループホーム利用者の方が、より良く生活が出来るように、質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今後、重要になってくると思うがまだ取り組みは出来ていない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームで定期的に虐待についての勉強会を開催し、虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、契約書を家族の方、利用者の方と一緒に目を通して、確認を行っている。また、疑問点については、随時、分かりやすく答えている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満、苦情などは、職員が直接話を聞いたり、管理者自らが常に利用者に関わっており、意見等を聞きだし、対応している。また、訪問者、ボランティアの方たちとも気軽にコミュニケーションが来ている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームでの行事に参加していただいたり、ご面会に来られた時に、利用者の方の生活の様子や、健康状態をお知らせしている。また、ホーム便り「ほんのりさぬき富士」を定期的に発行して、生活の様子等を、お知らせしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も、利用者の暮らしぶりがわかり、ホームでの生活に安心感が与えられるように、日々の生活の様子や、健康状態がわかるように、努めて行きたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の方の面会時に、直接意見等を聞いたり、運営推進協議会などで、利用者の方、家族の方の意見を聞き、市の職員、管理者、職員が問題について検討し、運営に反映できるようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎週1回のスケジュール会で、意見や提案、運営に対しての効率化、向上案等、意見を聞きそれを反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じて、職員の勤務の調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来、職員の移動は最小限にとどめ、馴染みの関係を作ることが出来るように努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、事業所外研修にも参加している。次世代のリーダーになるべく養成研修や法人内事業所間の相互研修にも参加し研鑽を深めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	丸亀市健康福祉部介護支援課主導によるネットワーク作りにも積極的に参加、勉強会や事業所訪問にも参加し、サービスの質の向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	気軽に声の掛けれる管理者、職員の関係ができています。職員と管理者、利用者が共に生きる運営上の理念を掲げ、いつでも相談に乗れる体制作りを目指している。法人内のクラブ活動や、種別協議会のバレーボール大会や職員体育祭、職員花見、忘年会で親睦を深めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	積極的な資格取得の支援、資格手当での支給、情報提供や勤務調整を行い、職員のやる気を引き出せるように努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	毎日のかかわりの中から、利用者の不安、求めている事などを知ることが出来るように、常に利用者の方と寄り添い話が出来るように努めている。	○	職員が、利用者の方達と常に寄り添い、その中で利用者の方の思いや、不満を見つけ出し、利用者の方がホームで穏やかに生活が出来るように支援していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族参加の行事や、面会時等には、利用者の状態報告をしている。また、家族の方と気軽に話が出来る関係を作れるように日常的に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の方と十分に話をし、検討しながら、より良いサービスを提供できるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショートステイ利用時に、何度かホームへ訪問していただいたり、家族の協力を得て、面会、外出の機会を多く作って、徐々に馴染むことが出来るように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	上手く馴染みの関係が出来るように、職員は利用者と寄り添い一緒に過ごしながら、喜怒哀楽を共にし、人生の先輩として利用者の方から、生活の知恵などを、色々教わったりして、支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事がある時や面会時には、気軽にホールで利用者、家族、職員と一緒に話をしたり、行事に参加したりして一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の方や、家族の方とのかかわりの中から、情報を収集して、本人と家族の関係を理解し、今後もより良い関係が築いていけるように支援している。疎遠になりがちな身内の方には、ホーム便りや、個人の日常生活がわかるような写真などを送り、理解と協力がいただけるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、知人などが訪問しやすい雰囲気作りをしたり、遠くはなれた身内の方等から、宅配便が届いたときには、お礼の電話をかけたり、葉書を出すなどの支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士が上手く関わり、生活が出来るように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等で事業所を退居した利用者、家族の方には面会に出かけて状態をお伺いしたり、お電話でその後の様子をお聞きしたりしている。また、その後の生活についても相談に乗っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の状態を把握して、本人の希望を取り入れながら、支援するように努めている。意思表示の出来ない利用者の方には、職員間でよく話し合い、家族の希望も聞きながらより良い支援が出来るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に関係者の方たちからの情報を出来るだけ多く取り入れたりと、入居時にも家族や本人に細かい聞き取り調査を行っている。入居後も、日々の関わりの中で生活歴や、馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりと深く関わる事で、本人の状態などを総合的に把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、医師、看護師などの意見を取り入れて、本人がより良く過ごすことが出来るように、介護計画の作成をしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。また、必要に応じてその都度、家族関係者と話し合っ、現状に即した新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の利用者の方の記録を細かく記録し、職員間で申し送りを徹底して、共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	日々の様子や、ケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら、今後も介護計画に活かされるようにしていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の要望等を聞き、デイサービス、ケアハウスなどを訪問したり、併設施設の特殊浴槽を使用したりして、利用者の方への柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月1回家族のボランティアによる生花教室をしていただいたり、誕生会などに、地域の福祉ママの応援で開催したりしている。また、地域の保育所、小学校児童の訪問があり、協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム計画作成担当者連絡会に参加し、市内のグループホームのケアマネジャーの方と関わることは出来ているが、他のサービスの利用は出来ていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの関わりが少ない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族、医師、看護師などの意見を取り入れて、本人がより良く過ごすことが出来るように、介護計画の作成をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人及び家族の希望する医師、医院での適切な医療を受けることが出来るよう、連絡調整している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設事業所なので、毎日看護師に利用者さんの状態報告をし、日常の健康管理、医療活用の支援をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時には、病院関係者に状態報告を受けると共に、病院に行き、状態の把握に努めている。また、主治医には利用者の方の状態報告を毎日行い、指示を仰いでいる。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、本人、家族、医師、職員との話し合いをしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の利用者の支援については、医師、看護師との情報交換をしながら、今後の対応について話をしている。	○	利用者の方も高齢になり、重度化して来られている方もおられる。家族の希望も受け入れながら、利用者の方が最後までより良く過ごしていただけるように、医療との連携をとりながら、職員間で今後の変化に備えて検討や準備を行って行きたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから他の事業所などに移り住む際には、関係者との連携をとり、十分な情報を交換することで、本人のケアが十分出来るように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	一人ひとりの嗜好を十分に知り、食事が楽しみであるように、その人にあわせて柔軟に対応していきたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄チェック表を作成し、本人の排泄パターン習慣を活かして出来るだけトイレでの排泄を支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の方の希望を聞きながら、午前、午後どちらでも入浴していただけるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や、その日の体調、年齢などに応じて、休息、睡眠がとれるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の生活歴を知り、歌の好きな方、話の好きな方、体操など体を動かすのが好きな方、花に水をやったり、草抜きをしたりと本人に合わせて支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピング等に出かけたときには、支払いが出来るように努めている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設事業所の方と一緒にバスでショッピングに出かけたり、日光浴や、散歩に出かけたりしている。また、家族の支援で墓参りに行かれたり、ドライブに行かれたりしている。	○	福祉ママの協力を頂いて、GHでショッピング等にいくように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年は風邪の流行で、行けなかったが、毎年初詣に職員、利用者、家族の方も一緒に出かけている。また、家族の支援で墓参りやドライブに出かけたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人への電話が出来るように支援したり、年賀状、暑中見舞い状などを一緒に書き、家族の方に送付している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	明るいホーム作りが出来るように、職員間で話し合っている。毎日面会に来られ、職員とも楽しく話をされている。	○	家族の方や、馴染みの方がいつでも気軽に立ち寄れる雰囲気作りをしていきたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、併設事業所の職員など交え、勉強会や話し合いをして、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は、玄関を開放してチャイムで対応していたが、現在対応の難しい利用者の方がいる為、鍵を掛けているときもある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、常に利用者に目を配り、安全に過ごすことが出来るように努力している。日中はもちろん、夜勤の時もホールで記録するなど、全体が把握できる場所で業務を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具や包丁、はさみなどの危険なものは、職員と一緒に十分注意して使い、保管場所にきちんと片付けるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月、併設事業所の職員など交え、事故防止委員会を開催し、事業所での事故の状況を把握し話し合いをしたり、事例について検討したりしている。利用者一人ひとりの身体の状態を把握して、未然に事故が防げるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護職員が、定期的に急変時、事故発生時への対応の研修を行っている。	○	利用者の急変時や事故発生時に全ての職員が応急手当や、初期対応が出来るように、今後も研修を継続していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備えて、定期的に避難訓練を行っている。又、災害時には地域の人々の協力もあり、支援をお願いし、近隣の方々を加えた消防の組織の連絡網を作っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の面会時とか、電話での連絡時には、現在の状態を報告している。利用者の方に何らかの危険の恐れがあるときには、家族と相談して対応策などを話し合っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に利用者の状態を把握して、職員間の申し送りを確実にしている。異変がある時には、看護師と連携をとり、速やかに対応が出来るようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の方の服薬管理票を作り、職員が常に把握できるようにしている。又、日常的に観察し、状態の変化に気を配っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がちな方には、寒天、ゼリー、オリゴ糖などを摂取していただいたり、日常的に体操したりして体を動かすことが出来るように支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きなどの口腔ケアへの声掛けと、出来ない方には、職員が口腔介助を行っている。夜間は、義歯洗浄剤を使用して、清潔への支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が食事の栄養の管理をしている。又、水分がとりにくい方には、トロミアップやゼリー、寒天などを使用している。食べ過ぎないように注意している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	定期的に併設事業所の職員を交え、感染予防委員会を開催して、感染症に対する予防の対応の確認を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器洗い乾燥機を使用している。日頃、台所、調理用具などの衛生管理を行っている。食材などについては、新鮮なうちに使用し、賞味期限を守って安全管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	傾斜地に建っている為、危険防止の為にフェンスに囲まれているが、玄関には、季節の花々を植え、家族の方たちが出入りしやすい雰囲気作りをしている。	○	利用者の方、家族の方などが、親しみやすく安心して出入りが出来るように、玄関の明るい雰囲気作りや庭には季節の花等を植えるなど、色々と工夫をしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、利用者が集まれるよう、落ち着いた感じになっている。季節に応じて、掲示を変更したり、夏の日差しがきついのですだれなどを使用して、陽射しの調整をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外では、サンルームがあり、一人で過ごすことが出来るようになっている。又、気の合った利用者同士でおしゃべりなどをして自由に過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や、家族と相談して昔なじみの使い慣れたタンスや置物などを持って来ていただき、本人が落ち着いて生活が出来る生活空間となるように支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の体調などに合わせて、温度調節、換気などには常に気を配っている。 冷えすぎる事の無いよう、外気との温度差にも気をつけている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには手すりを付け、ホーム全体がバリアフリーになっている。トイレ、浴槽にも手すりを付け、一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、居室等は、わかりやすいように大きな字で表示したり、入浴時には暖簾を掛けて、場所が分かりやすく工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りには、散歩が出来るようになっているが、坂道が多い。ベランダは、自由に利用者の方が歩けるように開放している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方が、安心安全にホームでの生活が出来るように、常に利用者の健康状態を把握して、医療との連携をはかり、対応できるようにしている。食事は管理栄養士が栄養面に配慮して利用者の好みに合うように献立作りに取り組んでいる。四季を感じていただく為に、ホームの玄関に花を植えたり、時節の花や野菜などを作って楽しめるようにしている。